

解題

周星

『郷土的常識の意味』 自序

ZONG Xiaolian
宗 曉蓮

著者：周星

1957年生まれ、漢族。現在、愛知大学国際コミュニケーション学部教授、中国民俗学会顧問。

1982年西北大学歴史学部考古学専攻卒以降、中国社会科学院歴史専攻修士、民族学専攻博士、社会科学院での教員を経て、1989年より北京大学社会学研究所にてポストドクターに就任。1991年より同准教授、1992年より1年間筑波大学大学院歴史・人類学専攻でのポストドクターを経て、北京大学社会学人類学研究所の教授に就任し、翌年からは博士学生指導教授となる。2000年より愛知大学国際コミュニケーション学部の教授に就任し、現在に到る。

1992年以来、北京大学に「中国少数民族専門研究」、「民族学と人類学」講座、「民俗学専門研究」、「社会人類学導論（合作）」クラスなどを相次いで開設し、中国の民俗学、民族学、人類学の発展に大きく貢献する。1995年以降は、国家教育委員の第1回～4回社会文化人類学ハイレベル研究討論グループの創設と運営、芸術人類学会創設に参加する。

周教授は、1994年から「七五」、「八五」、「九五」の国家による社会科学重点化プロジェクトを担い、北京市社会科学プロジェクトから国際協力プロジェクトまで20近い重要プロジェクトの計画と参加を果たす。1995年にはポストドクター「国氏賞」を受賞し、国家的重要研究者であることを内外に認められる。その後も、1998年には、国務院特殊津貼専門家（State Council Expert for Special Allowance）、1999年には国家教育部の「専門領域を超えた人材育成計画」に選ばれるなど、その輝かしい業績から、名実ともに中国を代表する人類学者、民俗学者といえる。

また、中国民俗学副理事長を務めるなど、中国の民俗学の発展に大きな貢献を果たし、今日におけるまで学会をリードし続けている専門家である。

周教授は、その幅広く深遠な博学に基づく、民俗学と考古学、民族学分野を架橋する評価の高い専門著作（『史前史と考古学』1992年、『民族学新論』1992、『民族政治学』1993年）などのほか、日本の文化人類学の中国への紹介（『文化人類学15の理論』、『漢民族の宗教—社会人類学的研究』の翻訳など）、その業績は多岐にわたるが、民俗学の分野においては、ご自身の専門的研究著作（『境界と象徴：橋と民俗』1998年など）のみならず、中国国内の先行研究の整理や紹介とならんで、多くの重要な論考の編集をおこなっており、『民族学の歴史、理論と方法（上・下）』（2006年）、『国家と民俗』（2011年）など国際的な民俗学の成果を集め、中国民俗学のレベルアップを図るなどの事業を成功させている。そのほか、多数の論文があり、それらは中国民俗学の展開に大きな影響を与えている。

近年では、『郷土生活のロジック—人類学的パースペクティブからみた民俗研究』（2011年）など、郷土生活、生活世界、日常、生活知をキーワードとする著作を刊行し、今回訳出した文章は、『郷土生活のロジック』の続編にあたる『本土常識の意味』（近日出版予定）の自序である。